

光村図書「美術Ⅲ」 年間指導計画例

各学校における美術の年間指導計画を作成するには、各領域・分野をバランスよく配列することも一つのポイントです。その際、文化祭や展覧会などの学校行事や地域の文化的な催し、近隣の美術館の展示内容なども考慮した内容にしたいものです。また、年間指導計画の作成と指導の工夫に際しては、教科書の各題材などを参考に、生徒一人一人が主体的に表現や鑑賞の学習ができるように配慮し、一人一人に適した指導ができるように学習環境を整えることも重要です。同時に、題材を通して生徒のどのような力を育てるのか、目標を明確にすることも大切です。ここにご紹介する年間指導計画例が、先生方のご指導の一助となれば幸いです。

計画1…短時間の題材を中心に構成した年間指導計画例

計画2…長時間の題材を中心に構成した年間指導計画例

計画 1 【短時間題材を中心に構成した年間指導計画例】

光村図書 『美術 3』使用		年間 70 時間 ・3 学期制（1 学期 26 時間・2 学期 32 時間・3 学期 12 時間）。 ・2 学期制（前期 36 時間・後期 34 時間）前期 26 時間の後、夏季休業が入る想定。				
学期	時数	活動	題材	活動内容や育てたい力	対応する教科書のページ	
1 学期 26 時間	前期 36 時間	4	表現／ デザイン	書物のデザイン 美術を学んで広がる未来	美術に関する職業から興味のある分野を調べ、進路に関する視野を広げる。また、同じ分野を調べたグループで冊子型の資料をつくる。図や写真を効果的に使い、わかりやすさに配慮する。	22～23, 40～45
		4	鑑賞／ 絵画・彫刻, デザイン	日本人の美意識を感じる	自己の価値観や美意識を働かせて表現の工夫を感じ取る力を育て、日本の美術文化の理解を一層深める。	18～19, 28～29, 46～47
		8	表現／ 絵画・彫刻	鉛筆の可能性	身近な物をモチーフに、意図に合わせて多様な種類の鉛筆を効果的に使って表現する力を育てる。	8～9
		2	鑑賞／ デザイン	オリンピックのデザイン	デザインの社会における役割をオリンピックを通して考える。ユニフォームやピクトグラムなど自分の注目するデザインに絞って、その歴史や国による違いなどを調べる。	30～31
		8	表現／ 映像メディア 表現	編集で広がる映像の世界 短編映画をつくる	映像の特性を理解し、主題をもとに構想を練り、映像作品としてあらわす力を育てる。	34～35
	夏季 休業中	※夏季休業中の課題	自然の力を生かして	自宅周辺や旅行先などで、自然の事象や場所の特徴を生かした作品をつくり、撮影する。	16～17	
2 学期 32 時間	後期 34 時間	2	鑑賞／ 絵画・彫刻	自然の力を生かして	夏季休業中に撮影した作品を発表する。印象に残るようプレゼンテーションする力や、お互いの作品を、根拠をもって批評し合う力を育てる。	16～17
		8	表現／ 絵画・彫刻	響き合うイメージ	過去の美術作品や異文化の表現を学び、新しい感じ方やものの見方を身に付け、表現につなげる力を育てる。	14～15
		2	鑑賞／ 絵画・彫刻	生命のサイクル	さまざまな視点から作品を読み取り、表現の工夫や描かれたものの意味、そこに込められた作者の思いを感じ取る力を育てる。	10～11
		20	表現／ 絵画・彫刻	卒業制作 「手」を表現する	教科書に掲載されているさまざまな手の表現を参考に、「手」について思いを巡らせ、自らの主題を設定し、表現方法を自由に選んで「手」をテーマにした作品をつくる。	6～7, 8, 10～11, 13, 14～15, 20～21, 46～47
3 学期 12 時間		12	表現／ デザイン	書物のデザイン ポートフォリオをつくる	高等学校 3 年間の美術科の集大成として、自らの学びをまとめたポートフォリオ形式の冊子をデザインする。	22～23, 38～39

配列のタイプ

- 1 年間で A 表現, B 鑑賞の各学習活動を偏りなく行う。

特 色

- 年度の最初に美術と職業に関する題材を設定し、進路に関する生徒の視野を広げるとともに意識を高め、実際に美術系の進路を考えている生徒については具体的に役立たせるものとする。
- 3 年間の学びのまとめとして、「卒業制作『手』を表現する」ならびに「書物のデザイン／ポートフォリオをつくる」を年間の最後に連続させて設定している。

計画作成上の留意点

- 「A 表現」の「(1)絵画・彫刻」, 「(2)デザイン」, 「(3)映像メディア表現」または「B 鑑賞」のうちから、一つ以上を選択して扱うことができる。(学習指導要領解説 p. 78)
- 「A 表現」の「(1)絵画・彫刻」については、絵画と彫刻のいずれかを選択したり一体的に扱ったりすることができる。(学習指導要領解説 p. 78)

計画2 【長時間題材を中心に構成した年間指導計画例】

光村図書 『美術3』使用		年間 70 時間 ・3学期制（1学期 24時間・2学期 28時間・3学期 18時間）。 ・2学期制（前期 34時間・後期 36時間）前期 24時間の後、夏季休業が入る想定。				
学期	時数	活動	題材	活動内容や育てたい力	対応する教科書のページ	
1 学期 24 時間	前期 34 時間	2	鑑賞／全	オリエンテーション	「社会との関わり」という観点から教科書の作品を鑑賞し、美術の働きについて考える。	全ページ
		12	表現／デザイン	安心をつくるデザイン	デザインの工夫によって、普段使っているものが、非常時でも機能するようなプロダクトを考える。災害時の被害を減らすデザインの工夫に気づく。	24～25
		10	表現／映像メディア表現	編集で広がる映像の世界 学校のCMをつくる	学校を紹介するというテーマで構想を練り、映像ならではの効果を生かした表現を考え、作品にあらわす力を育てる。	34～35
	夏季 休業中	※夏季休業中の課題	光を捉える	光の効果を使った表現や、カメラならではの技法に関心を持ち、創意工夫して、対象を撮影する力を育てる。	32～33	
2 学期 28 時間	後期 36 時間	2	鑑賞／映像メディア表現	光を捉える	夏季休業中に撮影した作品について、光の効果やカメラの技法など、どんな工夫をして撮影したのか発表する。	32～33
		8	表現／絵画・彫刻	鉛筆の可能性 細密表現に挑戦	鉛筆の使い方を改めて学び、対象を観察する力や表現する力を育てる。	8～9
		16	表現／絵画・彫刻	響き合うイメージ	過去の美術作品や異文化の表現を学んで新しい感じ方やものの見方を知り、そのうえで、自分の好きな作家や作品を研究して、表現に生かす力を育てる。	14～15
3 学期 18 時間	後期 36 時間	2	表現／絵画・彫刻	自然の力を生かして	自然の事象に注目して、水や光、風などの効果を生かした作品を構想し、スケッチを描く。	16～17
		14	表現／デザイン	書物のデザイン	ポートフォリオの作り方を学び、それをもとに「自分」をテーマにした雑誌をデザインする。	22～23, 38～39
		2	鑑賞／映像メディア表現	時代の精神を感じて	教科書掲載作品を鑑賞することで、作家が投げかけている現代的な課題を読み取り、それが作品としてどう表現されているか話し合う。	36～37
		2	鑑賞／全	今の私1点	今の自分が心に留めている作品を1点選び、その作品について、「今の私」と関連させながら発表する。	全ページ

配列のタイプ

- 10時間を超える表現題材や関連する題材をつなげて配置し、生徒の探究心に応えられるようにする。

特 色

- 進路選択をしつつある生徒に表現や鑑賞の活動を通して、社会について、美術について考える機会を多くする。
- 一つの題材の中でも表現の手法を自分で選択できるよう、留意する。
- 映像制作などではグループワークを取り入れ、生徒の関係づくりや美術の社会的役割を理解していけるよう配慮した。

計画作成上の留意点

- 「A表現」の「(1)絵画・彫刻」, 「(2)デザイン」, 「(3)映像メディア表現」または「B鑑賞」のうちから、一つ以上を選択して扱うことができる。(学習指導要領解説 p. 78)
- 「A表現」の「(1)絵画・彫刻」については、絵画と彫刻のいずれかを選択したり一体的に扱ったりすることができる。(学習指導要領解説 p. 78)